

工学基礎学類

学生の確保 (人)	年次		定員	志願者	受験者	合格者	入学者	
	1年次		120 ※－ (120)	633 ※1 (356)	446 ※1 (256)	138 ※5 (140)	131 ※5 (134)	
	編入学・再入学		10 ※－ (10)	28 ※2 (22)	28 ※2 (20)	16 ※2 (18)	10 ※2 (13)	
学生の進路 (人)	卒業生	就職者	就職者の内訳			研修医	進学者	その他
			企業	教員	公務員			
	139 ※－ (140)	23 ※－ (29)	23 ※－ (26)	－ ※－ (－)	－ ※－ (3)	－ ※－ (－)	104 ※－ (104)	12 ※－ (7)

・ () は前年度の数値を、※は外国人留学生を内数で示す。

1 工学基礎学類の活動

[教育]

新たに工学基礎概論を1年次科目として設定し、工学基礎学類のカリキュラム体系の概観、履修上の注意事項と履修方法の指導、学問に対する取り組み方を指導することになった。これまで行ってきた少人数クラスによる高密度の授業方式を更に強化するため、週毎のカリキュラムを事前に調整して各クラスの進度を合わせることで、演習問題とテスト問題、およびそれらの採点の統一化、科目毎にこれだけは必ず修得しないと見えない項目を明確に定義して、合格の最低基準を取り決め、絶対評価を行えるようにした。また、初年度に必修科目の単位を落とした学生の再履修者に対して再履修者特別クラスを昨年度から別に設けて、基礎からの再教育を行い、統一基準で評価している。工学基礎学類に改組して6年を経過したことから、カリキュラム全体の再検討を行う委員会を発足させた。

学類内で教官が相互に授業の参観を行い、問題点の指摘、改良点の提案を行った。特に、経験豊かな年配の教官から若手教官へのアドバイスは有益であった。複数教官の担当による同一科目では、電子メールを利用して頻繁に問題点を教官同士で議論し解決に努めた。

[学生生活]

今年度もクラス代表と教官との直接の意見交換の場であるクラス連絡会を2度開催した。2回とも今まで以上に多くの出席者があり、学生側から活発な意見・提案が出された。長時間にわたる会合であったが、学生、教官ともに最後まで活気にあふれ、充実した時間を持つことができた。

駐車場が有料化、ゲート化されたことに対して最初は学生側の不満が多かったが、通学に車を使わないことが徐々に定着しつつあるようである。そのせいもあってか、本年度は学生が加害者となる大きな交通事故や違反が無かった。反面、年度末になると卒業研究のために帰りが遅くなる学生が増えるため、自転車通学の安全性を十分に配慮する必要がある。

2 教員の教育業績評価の状況

重点化した1,2年の基礎科目では、小テストとレポート提出を毎週行っており、担当教官にとって採点と指導が大きな負担となっている。分割した小クラス間の進度をそろえ、評価基準を統一するために、担当教官は頻繁に連絡を取り合う必要があり、更に負担を大きくしている。特に各科目においた科目責任者の任務が重い。これらの点を十分に考慮して教育業績評価の材料としたい。

学力検討委員会では特に若手教官からの提案と活動が活発で、学類教育がずいぶん改善された。毎年行っている学生による授業アンケートでも評判のよい講義を担当している教官は評価の対象としたいが、定量的に教育業績を絶対評価するのはかなり難しいのが現状である。

3 自己評価と課題

高等学校へ教官が直接出向いて授業を行う出前授業を例年以上に活発に行ってきた。大学説明会に加えて3度おこなった一日体験教室も好評であった。基礎工学類から工学基礎学類へ移行したときには組織変更の内容がわかりにくいなどの批判を受けたが、地道な広報活動が実を結びつつある。一方、在学中に工学基礎学類から他学類へ転学類を希望する学生が第三学群中もっとも多いのは、今後も検討を要する課題である。以前、学類名と主専攻名に対して高等学校へアンケート調査を行ったが、名称から内容がわかりにくいという意見があったことを再認識し、今後も転学類が多い状況が続くなら名称変更も検討する必要がある。前期・後期入試の志願者数が年度によって大きく変動する点も学類内容のわかりにくさが一因していると考えられ、今後の検討課題である。

全学的にFDが問題視される以前から長年、よりよい授業を行う目的で学生による授業の評価をアンケート形式によって実施している。学生からの指摘によって授業を改良することは確実に成果を生んでおり、望ましい方向に進んでいる。冷暖房などの講義室の改良を望むものから、各教官の講義形式を批判するものまで幅広い意見が聞かれるが、それらを項目別に分けて一覧として学類教員会議で配布している。

高校生対象の大学説明会では、今年度初めての試みとして在校生がボランティアとして自分たちで作成した学類パンフレットを用意し、昼食時に懇談会を開いた。参加者のアンケートによると、在校生の生の声を直接聞いて大学生活についての貴重な情報が得られたと大変好評であった。これからも積極的に続けていきたい。